

## 体育・保健体育科におけるアクティブ・ラーニングの視点による授業改善 ーベースボール型球技「ソフトボール」に着目してー

### Improving courses in physical education and health education through active learning : Focusing on softball

松 井 慎 一

Shinichi MATSUI

#### I. はじめに

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするため、学習指導要領自体の枠組みを次のように見直した。

- ① 何ができるようになるか
- ② 何を学ぶか
- ③ どのように学ぶか
- ④ 子供一人一人の発達をどのように支援するか
- ⑤ 何が身に付いたか
- ⑥ 実施するために何が必要か

以上の枠組みの中、「③どのように学ぶか」について、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善であるが、これは、形式的に対話型を取り入れた授業や、特定の指導の型を目指した技術の改善だけではなく、学習者が能動的に授業に取り組みなが

ら、学習者の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものである。

今回の研究においては、ベースボール型球技「ソフトボール」に着目し、従来の学習方法とチーム編成を組み合わせた授業研究を行い、それぞれの特徴を比較・分析することで、能動的な学びのための学習の在り方を探った。

#### II. 研究方法

国士舘大学体育学部の学生による研究授業及びアンケートの実施

29人の学生(ソフトボール競技経験者15人未経験者14人)が3つのパターンの授業を実施するとともに、毎回アンケート調査を行い、その結果を比較する。

##### 1. 授業形態

- (1) パターン① 一斉練習形式(教師が練習内容や留意事項を最初に示す)
  - 二人一組でキャッチボール(相手の胸に投げ、正面で捕る)
  - 投球練習(スリングショット、ウインドミル)

- 守備練習（塁間程度の距離で捕ったら捕手へ返球する）
- 打撃練習（トスバッティング、フリーバッティング）
- (2) パターン② グループ別練習形式（練習内容は教師が示す）  
グループ編成  
A ソフトボール競技未経験者  
B ソフトボール競技経験者と未経験者の混合  
C ソフトボール競技経験者
- 二人一組でキャッチボール（相手の胸に投げる、正面で捕る）
- 投球練習（スリングショット、ウインドミル）
- 守備練習（塁間程度の距離で捕ったら捕手へ返球する）
- 打撃練習（トスバッティング、フリーバッティング）
- (3) パターン③ グループ別練習形式（グループごとに練習内容を決定する）  
グループ編成 パターン②同様  
グループ練習 ○キャッチボール ○投球練習  
○守備練習 ○打撃練習

2. アンケートの内容

アンケート内容項目	自己評価
興味・関心を持って取り組んだ	A・B・C・D
見通しを持って最後まで取り組んだ	A・B・C・D
これまでの知識や技能を向上できた	A・B・C・D
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	A・B・C・D
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	A・B・C・D
全体として能動的に取り組んだ	A・B・C・D
自由記述	

自己評価 A 十分満足 B 満足 C やや不十分 D 不十分

Ⅲ. 研究結果概要

1. アンケート自己評価の結果概要

- ・アンケートの自己評価は全体的に高く、本学体育学部学生たちの運動好きでどの形態の授業でも積極的に取り組むという姿勢が見て取れる。また、教職課程を履修している学生が多く、指導者の考えや活動内容の意図するものを理解している、又はしようとしていることも自己評価の高さに表れていると考える。
- ・授業形態別に見ると、パターン①では、やや不十分、不十分といった項目が一定程度みられるが、パターン②ではA・Bグループの一部にやや不十分と回答した項目が見られる程度となっている。パターン③では、全グループで全項目において、十分満足又は満足という評価となっている。

2. アンケート自由記述の概要（ABCはグループを表す）

- ・パターン①では、教師の指示や助言は的確であっても、ペアが未経験者同士の場合、正しく理解したり、教え合ったりすることができず、あまり技能面を向上させることができなかった。

- ・パターン②では、レベルに応じた練習ができたが、見本などが分からず技術面の向上があまり感じられなかった。(A)
- ・経験者と一緒に活動することで課題発見や向上策も見つかりやすく内容も楽しかった。経験者は物足りないのではないかと感じた。(B)
- ・先生から指示された内容は、できることが多く体慣らし程度に感じた。しかし、経験者同士で活動したためレベルの高い内容になったと思う。(C)
- ・パターン③では、自分たちで考え意見を出し合っただけで内容を決めるので、みんな積極的になりとても楽しくできた。チームワークも感じながら良い雰囲気でも活動できた。(A)
- ・ウインドミル投法では、未経験者は最初全くできなかったが、経験者の投球を見たり、投げ方を教わったりすると上達していた。教える楽しさ、教わる楽しさの両方があった。また、たくさん指摘・助言をもらったので向上できた。(B)
- ・自分たちで練習内容等を考えた方が、やらされている感じがなくいいと思う。経験者だけだったので色々なことができたが、未経験者がいるとなるとそうはいかないこともあると思った。(C)

### 3. 考 察

#### パターン①

二人一組の際に、経験者と未経験者とで分かれてしまっていた。この場合、未経験者たちは不十分な理解のまま運動している危険性がある。研究授業においても、経験者たちのプレーに圧倒され、観客のような心情になっていた未経験者の様子も見られたことから、一斉指導という授業形態を選ぶ場合の留意事項としてペアの組み方を押さえておく必要がある。

#### パターン②

グループAは、未経験者のみのため失敗を恐れ

ず、積極的に楽しめたという評価、グループCは、経験者のみのため少し物足りないという評価である。学び合いという点では、グループBの経験者と未経験者の混合がベターな環境であると考えられる。

#### パターン③

どのグループも自分たちで練習内容を決めたことで、意欲的に取り組んだと評価している。その意欲が、知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力等の向上、学びに向かう力や人間性等の醸成にどうつながるか軽々に評価できないが、目標達成のために自分たちで手段を工夫していくことが求められている現在においては、ふさわしい方法であると考えられる。

## IV ま と め

新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現させるには、学習者のレディネスをはじめ、学習者の健康状態、学習集団の雰囲気等、学びの前提や土台となるものも非常に重要になる。指導者は、これらの状況を把握しつつ、学習者がより能動的な学習を重ねることで、より良く生きる力を育てていくよう、常に授業改善に取り組んでいかなければならない。今回の研究では、学習グループは経験値レベルを混合させ、できるだけ自分たちで運動メニューも考えさせた方が能動的な学習につながるという結果となったが、授業のねらいに応じ、柔軟で的確な学習環境を提供していくことが必要であると考えられる。

## 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会答申（平成28年12月21日）
- 2) 中学校学習指導要領（平成29年3月 文部科学省）
- 3) 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）
- 4) 授業が変わる！新学習指導要領ハンドブック 中学校保健体育編（平成29年7月 時事通信出版局）

## 参考 アンケート自己評価集計

## パターン①

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	19	10	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	13	14	1	1
これまでの知識や技能を向上できた	12	12	5	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	11	11	6	1
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	13	9	5	2
全体として能動的に取り組んだ	16	12	1	0

## パターン② グループA

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	7	2	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	1	8	0	0
これまでの知識や技能を向上できた	1	2	6	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	2	6	1	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	2	6	1	0
全体として能動的に取り組んだ	7	2	0	0

## パターン② グループB

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	7	3	1	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	6	4	1	0
これまでの知識や技能を向上できた	5	4	1	1
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	5	4	2	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	7	2	2	0
全体として能動的に取り組んだ	8	3	0	0

## パターン② グループC

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	9	0	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	6	3	0	0
これまでの知識や技能を向上できた	6	3	0	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	3	6	0	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	7	2	0	0
全体として能動的に取り組んだ	8	1	0	0

パターン③ グループA

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	7	2	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	7	2	0	0
これまでの知識や技能を向上できた	8	1	0	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	7	2	0	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	8	1	0	0
全体として能動的に取り組んだ	8	1	0	0

パターン③ グループB

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	10	1	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	9	2	0	0
これまでの知識や技能を向上できた	8	3	0	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	10	1	0	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	9	2	0	0
全体として能動的に取り組んだ	10	1	0	0

パターン③ グループC

アンケート内容項目	A	B	C	D
興味・関心を持って取り組んだ	9	0	0	0
見通しを持って最後まで取り組んだ	8	1	0	0
これまでの知識や技能を向上できた	7	2	0	0
自己の課題等を発見し、向上策を考えて取り組んだ	7	2	0	0
他者の特徴等に気付き、称賛や指摘を行った	8	1	0	0
全体として能動的に取り組んだ	9	0	0	0